

分析シート

() 学校 () 年
氏名 () 男 ・ 女

記入日 () 年 () 月 () 日 () 曜日

記入者 ()

分析例 **A** 整理整頓ができない

「状況把握」、「理解・実践」、「ふりかえり」の順に進みながら、子どもたちにできる支援を考えていきましょう。

状況把握

「子どもが苦戦した場面」を見つけたら、その子自身が「どんな状況にあるのか」を詳しくチェックしてみましょう。

観察チェック①では、発見した「苦戦した場面」そのものを挙げ、

観察チェック②では、その子を取りまく環境、その子自身の状態について振り返ります。
(①での気づきも含めましょう)

観察チェック③では、何がこの子の課題なのか、気になるところはどこかを見つめ、印をつけます。
(重要度によって、◎、○など使い分けてもいいです。)

観察チェック①

苦戦した場面

整理整頓ができない

分類		チェックの結果
起こった状況	いつ	学校生活の中で日常的に
	どこで	教室の自分の机、ロッカーの中
	だれが(だれと)	本人
	周りの状況、様子	机の中でプリントなどがぐちゃぐちゃになっている 物が入りきらずにはみ出したり、机の上に出しっぱなしになっていたりする。ロッカーにも持ち物が入りきらない
	起こる頻度	毎日
	他の気になる状況、様子	お知らせなどが家庭に届かず、提出物が出されずに本人も困ることがある 教師と一緒に整理してもすぐに同じ状況になってしまう
子どもの状態	目に見える状態	プリントなどが配布されると、すぐに机の中に押し込む。自分でどこに必要な物があるのかわからず、探すのに時間がかかってしまい、すぐに学習に取り組みない。授業に必要な道具がそろわないため、学習が遅れがちである
	予想される心理状態	整理整頓が面倒で嫌。探しているものが見つからず、いらいらする 学習がわからなくなり、あきらめてしまう。必要な物がないため、周りや教師から注意を受けて恥ずかしい

観察チェック②

観察チェック③

分類			チェックの結果		これまでの結果を見て特に気になる点(◎、○など)	
環境	家庭	人的	親子、兄弟姉妹関係 母親は配布物が家庭に届かないことを心配している	➡		
		物理的	住居	➡		
	学校	人的	教師、友人との関係 教師の言うことを聞いているように見えるが、その通りに実践できないことがある 部活を中心とした友人が多い	➡	○	
		物理的	学校環境 かばんが大きく、持ち物が多いため、きちんと整理整頓しないとロッカーや机に物が入りきらない	➡		
	地域	人的	地域の人との関係	➡		
		物理的	地域の環境	➡		
	社会	地域、地域・学校外の所属機関(チーム、習い事なども含む)	塾に通っている	➡		
	自然	子どもが苦戦しやすい時間帯、季節、天候		➡		
	発達	身体	身体全般の発達(不器用さ、感覚の問題など)		➡	
		心理	情緒(不安定、感情の起伏などの心の発達状態)	怒られていても笑ってしまう時がある。落ち着きがなく、授業中は集中力に欠け、おしゃべりがある。注意されるのを避けるために、嘘をつくことがある	➡	◎
社会		コミュニケーション、社会性の問題	周囲の人が驚くような行動をとることがある	➡		
学力・思考力その他		できること、できないこと、その他(体力、芸術等)	運動能力や学習能力は問題なく、テストでは平均点以上が取れる 課題の提出期限の意識が薄く、提出物はあまり出せないため、評価が低い	➡	◎	

次は、③でチェックされた気になる行動を改めて書き出してみましょう。



理解・実践

観察チェック③でチェックした特に気になった部分を、
観察チェック②からそのまま抜き出しましょう。それが、その子の課題につながります。

子どもがかかえている「課題」を明確にし、
なぜ課題をかかえているのか、そうなるのか「仮説」を立てます。

仮説をもとにして、課題が改善できるような「手立て」を考えてみます。
手立ては、具体的なものを思いつくだけあげましょう。

さらに、実際の生活の中でできる実践の「方法」「期間」を設定して取り組みます。

観察チェック③でチェックした、特に気になった点を②から改めて書き出してみましょう。

<観察チェック③から>

- ・落ち着きがなく、集中力に欠ける
- ・教師の話をも素直に聞いているようでも、その通りに実践できない
- ・期限の意識が低く、やるべき課題をやらないため、評価が低い

その子は、なぜそのような行動をとってしまうのでしょうか。
本人はどんな課題をかかえているのか、なぜそうなるのか、仮説を立てましょう。

<抱えている課題>

- ・順序立てて活動することができない
- ・その場限りで物事を終わらせようとする

<仮説>

- ・集中力に欠ける
- ・継続して作業を続けることができない
- ・見通しを持って考えることができない

仮説をもとに、具体的な手立てを考えて、実践してみましょう。

<手立て>

- ・教師の個別の声かけ
- ・配布物を保管するフォルダを作る
- ・静かな環境の確保
- ・一日のスケジュールを把握させる
- ・順序立てて説明し、ひとつひとつ処理していく力をつける

<実践（期間）>

- ・一斉指導の後、個別に指示を再度行う（その都度、一学期間）
- ・配布物が整理されているか、子どもと一緒に確認する（月一回、一学期間）
- ・子どもが作業していることを随時確認する（その都度、一学期間）

ふりかえり

実践が有効だったかふりかえりましょう。

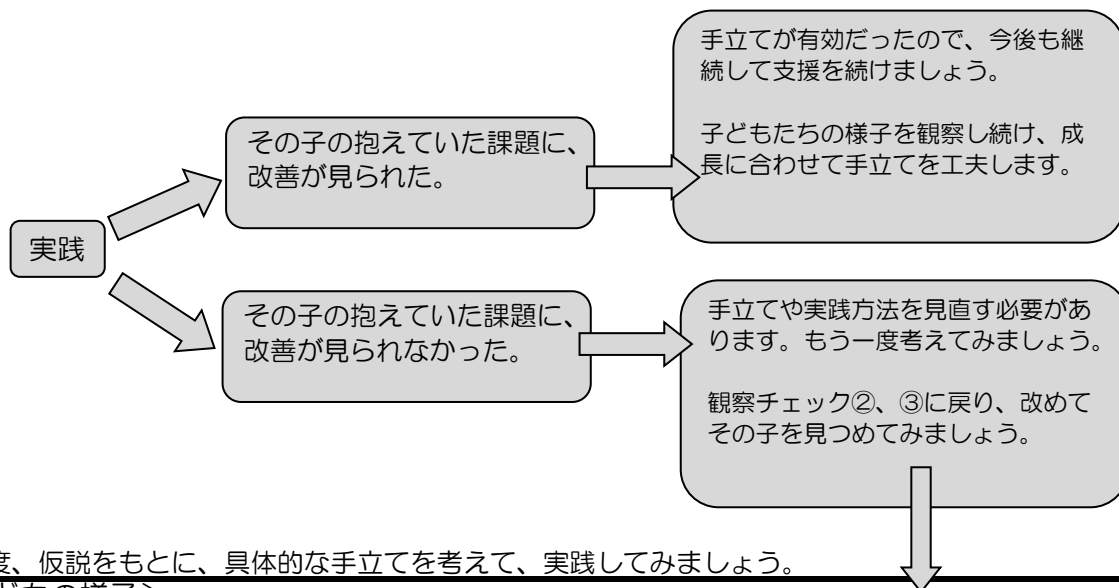
課題が全面的に改善されたのか、一部改善されたのか、方法・期間は適当だったかなど、考えてみましょう。

手立てや実践方法を見直す場合は、はじめの「観察チェック②、③」「仮説」などに戻り、その子を見つめ直してみましょう。

<ふりかえり>

- ・教師の声かけにより、次の行動のタイミングがつかめるようになった
- ・行動に見通しを持てるようになった
- ・学習の流れがわかり、配布物を活用できるようになった
- ・分類してフォルダに入れられるようになった
- ・学習用具の出し入れがスムーズになった
- ・一つのことをやり終えてから次のことに進めるようになった

<考察しよう>



<子どもの様子>

- ・配布物を持ち帰れるようになったが、提出物がまだ出せないものが多い
- ・催促すると苛立つ

<今後の手立て>

- ・教師の声掛けや指示がなくても自分から行動できるように持ち物や提出物のリストを自分で作らせる

<その後の実践結果>

- ・提出物が期日までに出せるようになった